

在宅医療・介護連携 市民フォーラム

入場無料

テーマ 人生の折り返し! どう生きる、どう支える?



令和元年

とき
11月16日(土)
午後1時30分～4時

ところ

一関文化センター 中ホール
(一関市大手町 2-16)

国では、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい・医療・介護・予防・生活支援」が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を推進しており、その取り組みとして、包括的かつ継続的な「在宅医療・介護」の提供が重要となっています。

在宅医療・介護の推進には、医療・介護関係機関及び職員が、その専門性を活かし、効率的に連携したサービスを提供すること、また、市民が「在宅医療・介護」を理解して、在宅などでの療養が必要になった時に、必要なサービスを適切に選択できることが重要となっております。

本フォーラムは、市民が、最期まで自分らしく生きるための在宅医療の支援体制について理解を深めることを目的に開催します。

基調講演 13:40～14:40

幸せな人生のしまい方とは ～取材現場からの報告～

講師 読売新聞東京本社編集局生活部次長 本田 麻由美氏

パネルディスカッション 14:45～16:00

【テーマ】 人生の折り返し! どう生きる、どう支える?

【パネリスト】

医師 一関病院 院長
消防職員 一関西消防署 救急第1係長
民生委員 一関市民生委員児童委員連絡協議会 会長
地域包括支援センター 高齢者総合相談センターさくらまち 保健師
【助言者】 読売新聞東京本社編集局生活部 次長
【座長】 一関中央クリニック 名誉院長

佐藤 隆次 先生
小野寺 弥 氏
佐藤 親幸 氏
太田真希子 氏
本田麻由美 氏
長澤 茂 先生(一関市医療と介護の連携連絡会幹事長)



【講師プロフィール】

大阪府出身。1991年お茶の水女子大卒業、読売新聞社入社。編集局地方部(東北総局)、医療情報室(現・医療部)、社会保障部で主に医療・介護取材を担当。

2002年5月に自身の乳がんが見つかり、約10年の闘病体験に基づく医療コラム「患者の視点 記者の視点」(のちに「がんと私」に改題)を読売新聞朝刊で約6年間連載。また、取材班キャップを務めた連載企画「認知症 明日へ」、企画・デスクを務めた連載企画「QOD 生と死を問う」がファイザー医学記事賞大賞(2014年、2017年)を受賞。

お願い: 会場の駐車場には限りがあります。なるべく公共交通機関または支所等から出るバスを御利用ください。(バス発着時間は下記にお問い合わせください。)

主催: 一関市・一関市医療と介護の連携連絡会

問い合わせ先: 〒021-0026 一関市山目字前田 13-1 一関保健センター内 (担当)一関市保健福祉部健康づくり課地域医療推進係 TEL0191-21-2160 FAX0191-21-4656